

NEWS GOPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

世界最大のネットワークイベント NETWORLD + INTEROP'96 Interop DotCom ラスベガス開催

ネットワーク関連の展示会では世界最大のNETWORLD+INTEROP(N+I)とその併設イベントのInterop DotCom(主催:ソフトバンクエクスが社)が、4月1日から4日まで、米国ラスベガスのコンベンショナルセンターおよびヒルトンホテルで開催された。N+Iの出展社数は605社、Interop Dot Comは50社となり、昨年に引き続いて活況を呈していた。(編集部・片岡義明)

ビル・ゲイツ氏のスピーチは エクステンジが中心

N+Iのキーノートスピーチには初登場のビル・ゲイツ氏の講演が行われた。昨年秋にマイクロソフト社がインターネットへの積極的な戦略を明らかにしてから、初めてのメジャーイベントであるということで期待された。講演当日に発売された、メッセージング機能を持つ「マイクロソフトエクステンジ・サーバー」の紹介が中心で、同社のWWWブラウザ「インターネットエクスプローラー」のバージョン3.0や、ネットワークとローカルの情報をシームレスに扱うウィンドウズの将来のバージョンもデモンストレーションされた。そのほか、ノベル社のCEOのロバート・フランケンバーグ氏の講演も行われた。



エクステンジ・サーバーのプレゼンテーションを行うビル・ゲイツ氏

イントラネットへの 注目度がアップ

今年のN+Iで目立ったブースはマイクロソフト社とノベル社だ。

マイクロソフト社は「マイクロソフトエクステンジ・サーバー」のデモンストレーションを大々的に行った。エクステンジを補完して強化するアプリケーションや、サーバー用PCなど、他企業の製品紹介のコーナーも大きかった。ノベル社は「インターネット・イントラネットコンピューティング」をキーワードに、グループウェアソフトの「グループワイズ」、同社の主力製品であるネットワークウェアのバージョン4をはじめ、企業システム構築のためのサーバーソフト群を紹介していた。

また、サーバーソフトとグループウェアソフトをトータルに提供する会社としてはほかにIBM社が出展していた。こちらではOS/2ワーブ・サーバーに加え、ロータス・ノーツ、サーバー用コンピュータなどを展示していた。

そのほかの企業でもイントラネットをキーワードにしたところは多い。いずれも企業内LANとインターネットを統合するシステムとして自社製品の優位性を強調しており、インターネットとともにイントラネットへの関

心の高まりが感じられる。

昨年にくらべて 身近になったATM

昨年のN+Iで新技術として注目を集めたATM。今年は関連機器をより多数の企業が出展しており、企業システムへの導入を呼びかけていた。サン・マイクロシステムズ社やデジタルイクイップメント社、シスコ社などを初め、多数の企業がATM関連の機器やシステム構築のソリューションを展示した。また、100Baseの展示も多く、今年は普通の企業にとって、ATMや100Baseは具体的に導入を検討できる製品として身近なものになったようだ。

ISDNでのSOHO環境を 各社がアピール

ISDN関連の機器も多く見られた。ターミナルアダプターやダイヤルアップルーターなどだ。SOHO（スモールオフィス・ホームオフィス）環境での使用にからめて紹介される場合が多く、テレコミュニケーションへの関心の高まりが感じられる。シスコ社やアセンド社、スリーコム社をはじめとする有名企業は企業側のシステムも展示し、リモートアクセス環境を総合的にサポートする環境をアピールしていた。米国ではISDNのブームが起きているようだ。



会場入り口に設けられたネットワークオペレーションセンター

ワイヤレス機器の 展示が増加

携帯電話の回線を使ってワイヤレスにデータ通信をするPCカード型モデムが、IBM社、モトローラ社、メガヘルツ社などから出展されていた。通信速度は9.6kbpsで、アンテナが付いている。PCMCIAタイプ2と3タイプのものがあった。また、ワイヤレスLANもデジタルイクイップメントのほか、数社が展示していた。ワイヤレスモデムは日本でもPHSのPCカードの出現が期待されており、次世代のモバイルコンピューティング環境として注目される。

ネットワークと 電話交換機の統合

PBXと企業内LANを結び付け、コンピュータを電話の代わりにするCTI（コンピュータ・テレフォニー・インテグレーション）に関するシステムが数社から展示された。ミツル社や米国NECが展示、ノベル社もそれぞれのプラットフォームでCTIのシステムが構築できることをアピールした。電話網をコンピュータネットワークで制御するこのシステムの、今後の発展が予想される。

会場内に敷設のネットで 多くの試み

N+Iでは毎年、会場内に各メーカーから供与された機器でネットワークをはりめぐらし、機器の相互接続性をアピールしている。「InteropNet」と呼ばれるこのネットワークでは、ビデオ会議をはじめ、動画再生のデモンストレーションなどさまざまな試みがなされていた。インターネットへは45Mbpsの回線で接続され、主要な講演がCU-SeeMeで配信された。

Interop DotComも開催

N+Iはハードウェア関連の新技術が中心だが、同時に行われたInterop DotComはインターネットに関連するソリューションが中心だ。今年が初めての開催で、今後も基本的にはN+Iと同時に開催される予定だ。

会場ではノベル社、サン・マイクロシステムズ社、ネットスケープ社、「リアルオーディオ」で有名なプログレッシブネットワーク社、ストリームワークスを開発したジグ社などがそれぞれ自社の主力製品を出展していた。まだN+Iにくらべて規模も小さいが、インフラの新技術が落ち着きを見せるなか、これからはこのようなソリューション中心の展示会が盛り上がることも予想される。

PC用のソフトウェア メーカーの増加

従来どおり、ネットワーク機器の出展が多いなかで、今年はマイクロソフト社やアドビシステムズ社、クォーターデック社、シマンテック社、ソフトクワッド社、ネットマネージ社などPC用ソフトをメインとする会社の元気がよい。これはPC用ソフトウェアメーカーのネットワーク分野への関心の高まりと具体的な製品が増えていることを表している。

URL <http://www.sbexpos.com/interop/>



多数の来場者が訪れた

インターネット最先端セミナーで 語られた最新技術とビジネス事情

3月28日と29日、東京・原宿クエストホールで本誌インターネットマガジンが主催する「インターネット最先端セミナー」が開催された。「テクノロジー」と「ビジネス」という2つをテーマに、インターネット界をリードする講師陣が豊富なデモと実例でインターネットの最新動向を紹介した。この2日間の講演内容からトピックを選んで紹介する。(編集部・錦戸陽子)

インターネット1996ワールド エキスポジションの意味

日本組織委員会実行委員長である村井純氏(慶應義塾大学助教授)によると、エキスポの位置づけは、新しい技術の開発、その利用、社会のしくみに合わせた運用方法を探るという3つの目的をもったコラボレーションの場である。その環境として45Mのバックボーンを敷き、家庭に128Kの実験回線を用意している。エキスポで使われる技術でとくに注目されるのは衛星だ。WISHというシステムをアジア全域で使ったり、家庭用受信機で使うための研究が進んでいる。また、情報だけでなく感覚を共有する試みの1つとして、対象物を高速で追いかけるソニーの追尾カメラが複数か所に設置され

る予定だ。こうした技術の検討はデモではなく、それぞれの分野のプロによって実証的に進められている。現在、インターネットプロトコルは急速な利用の広がり耐えられるよう変化しており、近いうちに電話などの生活道具もそこにつながるかもしれない。その検証もエキスポを舞台に展開される。

ブラウザの新技术と Javaテクノロジーの本質

ソフトメーカーによる最新技術の紹介は、日本ネットスケープコミュニケーションズの塩原稔氏(システム技術部アシスタントマネージャー)によるNetscape Navigator Akber3.0(アトラス)の紹介で始まった。このバージョンでは、JavaやSSL3.0をサポートし、プラグインが増え、フレーム画面

でBACKボタンが使える。英語版の正式リリースは5月の予定だ。

続いて登場したサンマンクロシステムズの北野敬介氏(製品企画部)はJavaは動くホームページを記述する言語ではないことを強調し、Javaの開発経緯を語った。北野氏によると、サンは90年にコンシューマー市場に参入して携帯通信端末の試作機を作った。この端末の限られたリソースでさまざまな機能を実現するために、アプリケーションやデータを必要に応じて取り込むJavaの原形が生まれている。JavaはOSを必要としないので、現在のコンピュータ市場を変えるのではないかと期待され、多くのメーカーがライセンスを取得している。

「動くホームページ」で有名なのはマルチメディアのShockwaveだが、これは現在普及しているShockwave for Directorにとどまらない。今後はドローソフトを扱うShockwave for FreeHand、サーバーにあるマルチメディアデータの情報をダウンロードしながら表示できるShockwave for Authorwareを発表する予定だという。

決済技術の混沌の中 カードはSETで決まり

ビザやマスターが2月に公開したSETで



会場からの発言もあったパネルディスカッション

は、ユーザーが送ったクレジットカードの情報は店側が見ないまま信用照会され、カード会社側でも会員が何を買ったのを見ることができない。購入の証拠は電子印鑑によって残るしくみだ。現在各国の対応が検討されているが、これがインターネット上のカード決済の統一規格になることは間違いないと浅田一憲（ピー・ユー・ジー/RSAプロジェクト代表）氏は語る。近い将来、電子小切手の機能を合わせたICカード「スマートカード（EMV）」も登場する。銀行の動きで注目されるのはシティバンクだ。銀行間の電子通貨システムを特許出願したが、日本の銀行は異議を唱えている。こうしたセキュリティ技術はアメリカが最も進んでいるが、米国政府は最近、コマース目的に限り暗号技術の輸出規制を緩和した。

インターネット市場は5000万人 国内でも1000万人時代がくる

インターネット人口の正確な数はつかめないが、ホスト数ではネットワークウィザードという会社が1月現在約1000万台という数字を出しており、この値からユーザー数は5000万人と推定している。アメリカのニールセンの調査では北米・カナダでのユーザーは2400万人と推定され、そのうち女性の割合は34%だという。一方、日本では125万人、女性7%という数字が出ている。利用者は倍々で伸びていき、日本も1000万人になる日は近いというのが東京大学計算機センター・石田晴久教授の分析である。

神話につつまれた エレクトロニックコマース

田坂広志氏（日本総合研究所/メディアインキュベーションセンター所長）は、エレクトロニックコマースには電子カタログ販売、パソコン普及率、電子決済、3次元仮想空間、電子ショッピングモールにまつわ

る5つの神話があるが、消費者の視点がないければエレクトロニックコマースは神話のままで終わってしまうだろうと問題提起した。たとえばカタログ通販の利用者とインターネット利用者は違い、新しい顧客開拓戦略が必要になる。3次元仮想社会は集客力はあっても購買にはつなげていない、電子決済はインフラのデファクトスタンダード争いを続けているが、決済システムができたからといって物が売れるわけではない。今起こっているのは金流マージンに対する流通革命である。電子ショッピングモールは百貨店型から専門店街型へ移っていく。消費者と市場が進化することを認識し、新たな商業空間の「編集」が望まれていると結んだ。

注目の3社が語る イントラネット戦略

インターネットで無店舗運営をしている銀行セキュリティファーストバンクはネットスケープのコマースサーバーを利用している。企業のネットスケープサーバー導入は急増しておりcomサイトの50%以上になったと日本ネットスケープコミュニケーションズの北島弘氏（マーケティングマネージャー）ネットスケープはビジネスのために銀行やカード会社と結んで課金できるシステムをできるだけ早く国内で提供したいと考えているという。

マイクロソフトの古川享氏（マイクロソフト代表取締役会長）は同社のインターネット製品をクライアント・サーバー、コンテンツ、オーサリングツール、開発ツール、オンラインアクセスと整理した。ブラウザは動画・音声などのオブジェクトを共通のしくみで扱うActiveXがインターネットエクスプローラー3.0に搭載され、エクスプローラーはActiveXのクライアントに進化していき、Officeは数年かけてインターネットとイントラネットに対応するという。

オラクルの新宅正明氏（日本オラクル取

締役マーケティング本部長）はエレクトロニックコマースはセキュリティリスクを見極め、この春急展開するだろうと見ており、オラクルはこの7月に発売するOracle Web Systemを中心に、エレクトロニックコマースを推進するシステムを提供していく。

イントラネットの時代を読む パネルディスカッション

最後に石田教授の司会で北島氏、古川氏、新宅氏、田坂氏が語ったイントラネットについての考え方を紹介する。北島氏の意見は「今ある技術の利用とセキュリティシステムを考えることがイントラネット構築のポイントである」。古川氏は「これまで企業、個人、社会が別々の情報の中で分けられてきたが、インターネットという1つのシステムで融合される」という時代観を話した。新宅氏は「インターネットの適用は、企業にとって初めての利用サイドに立ったシステムだ。ただし、現在はまだ双方向性がなく、これを確保することが企業の利益につながる」と言う。田坂氏は経営者の心理という側面からイントラネットを分析し、企業間の戦略的提携によってバーチャルコーポレーションの形に結びつくとしている。そして日本ではまだ事例がないが、ビジネスの新しいマインドを大企業でも育てるべきだと結んだ。

講演が終わって

ビジネスとテクノロジーというキーワードだけ見ても、インターネットが影響する範囲は社会のすみずみにまで及ぶことがわかる。よくテクノロジーの進化に社会制度が追いついていないといわれるが、インターネットのニーズを支えているのは個人であり、パーソナルな欲求である。それがテクノロジーの進化を加速させているのではないだろうか。

マイクロソフトのインターネット戦略が 具体化、ActiveX技術を中心に推進

昨年、インターネット戦略を強化することを発表したマイクロソフト社は、米国ラスベガスのNETWORLD+INTEROP'96、そして東京のINTERNET Dayで、インターネット市場に対する製品群と製品構想が明らかになってきた。(編集部・片岡義明)

イントラネットを意識した バックオフィス製品を充実

マイクロソフト社は、すでにウィンドウズNT、そしてサーバー製品群の「バックオフィス」を用意している。現在はデータベースを管理する「SQLサーバー」、ホストデータを管理する「SNAサーバー」、システム管理をする「システムマネジメントサーバー」、そしてメッセージング機能を提供する「エクステンジ・サーバー」が発売となった。これに加え、インターネット関連のサーバーとして、WWWによる情報発信を行なう「インターネット・インフォメーションサーバー」を始めとして、エレクトロニックコマース用の「マーチャントサーバー」、マルチメディア情報を扱う「メディアサーバー」、そして「ブロッカーサーバー」などを用意する。

これらのシステムを使うことにより、インターネットはもちろんのこと、企業内のネットワーク、つまり「イントラネット」の構築を支援するとしている。

ActiveXテクノロジーが アプリケーション技術の柱に

マイクロソフト社のインターネット戦略の中核になる技術として「ActiveXテクノロジー」がある。このActiveXテクノロジーは、従来の「OLE」という技術をネッ

トワーク環境に対応させたものだ。

たとえば、ネットスケープナビゲーターでは「プラグイン」として、新たな表示機能などを組み込むが、ActiveXテクノロジーでは、同社の「OLE」技術を使う。その結果、「プラグイン」を利用者自身が管理しなくてもよく、従来のOLEに対応したアプリケーションのような操作性が「インターネットエクスプローラー3.0」は得られることになる。つまり、マイクロソフトのワードやエクセルで作成されたドキュメントをHTMLドキュメント内に貼り付けることができ、インターネットエクスプローラー内で、ワードやエクセルのデータを表示したり、編集したりできるようになることを意味する。またActiveXスクリプトという枠組みでJava言語やPerl、ビジュアルベーシックにも対応する。

ローカルとネットワークで シームレスにデータ共有

このようにブラウザのActiveXテクノロジーへの対応「マイクロソフトオフィス」をActiveXテクノロジーに対応させることを急いでいる。これが完成すると「オフィス」というドキュメント制作環境と、そこで作成されたドキュメントを統合的にブラウザ、編集できる「ナビゲーター」の環境ができあがる。さらに、ネットワーク上の情報と手元のハードディスクの情報を統一

したインターフェイスで操作できるユーザーインターフェイス(開発名: ナッシュビル)を提供する予定にしている。これは将来的にはウィンドウズ、ウィンドウズNTの次期バージョンでのユーザーインターフェイスとしても採用されるとのことだ。

WWWオーサリングツールの ラインナップを充実

HTMLドキュメントの作成機能を付加する「インターネット・アシスタント・フォーワード」のベータをリリースしたことに引き続き、マイクロソフト社は「オフィス」全製品にWWW構築機能を搭載する。また、ActiveXをサポートしたビジュアルC++や「ジャカルタ」というJava言語の開発環境、単独のWWWオーサリングツールである「フロントページ」、すべての開発環境を統合した「インターネットスタジオ(開発名: ブラックボード)」をラインアップし、インターネットのシステムやページ作成のためのオーサリングツールを充実させる。

MSNは高付加価値な プロバイダーを目指す

また、インターネットアクセスのインフラストラクチャとして、「ザ・マイクロソフトネットワーク(MSN)」で4月からPPPによる接続が正式に開始した。コンテンツの充実をはじめ、オンラインショッピングが可能な機構ももち、今後さらに高い付加価値を持ったプロバイダーを目指す。

マイクロソフト社は従来から持っている自社の技術をさらにインテグレートすることで、製品群をネットワーク上で統合しようという戦略だといえるだろう。パソコン市場において絶大なマーケットシェアを持つ同社がインターネットでも具体的な製品を投入したときのインパクトを考えると、いまからその動向から目を離せない。

Product 通信コストを削減する インターネットで使うFAX 端末開発される

松下電送は、世界で初めて電子メール経由でFAX（イメージ）データの送受信ができるインターネットFAXを開発した。インターネットの標準プロトコルであるTCP/IP、SMTP、MIMEをFAXに組み込むことで、LAN（インターネット）との直結を可能にした。従来のFAXが電話番号で相手先を指定し、電話回線経由で紙へデータを送信するのに対し、インターネットFAXはメールアドレスで相手先を指定してインターネット経由で電子メールのMIME形式の添付ファイルとして送信される。インターネットFAXは1台でLAN端末機能と一般のFAX機能をともに兼ね備えており、インターネットを利用しているパソコンなどの各端末と、電話回線利用の一般ファックスとを双方向に中継して通信さ

せるゲートウェイ機能を持つ。

同製品はメールアドレスを指定するためのアルファベットキーがプラスされているだけで、見かけも操作方法も通常のFAXと変わらない。簡単な操作で画像や文書のデジタルデータ化ができるので、多数の同報送信などにも威力を発揮する。さらに、通常のFAXやFAXモデム、スキャナー、プリンターとしても使用できる。なお、開発は慶応義塾大学環境情報学部の村井研究室と共同で行われており、遅くとも97年中頃までには製品化する予定。価格は未定。

このインターネットFAXが普及すると通常の電話回

線を使用せずにFAXの送受信ができるようになるので、通信コストの大幅削減が実現する。インターネット電話同様、既存の通信システムに与える影響はかなり大きいといえる。

URL <http://www.mei.co.jp/mgcs/tech/>



コミュニケーションTOKYOでも展示されていた。

Event モバイルやイントラネット、SOHOなど ネットワークの最新技術を展示する コミュニケーションTOKYO 開かれる

電気通信の総合展示会である「コミュニケーションTOKYO'96」が、4月9日から12日にかけて東京ビッグサイトで開催された。

モバイル関連ではアステル、NTTパーソナルがPHSでの32kbpsの通信について紹介していた。また、NTTドコモがポケット

ベルの新サービス「ネクスト」を使って電子メールを受取るシステムを紹介したほか、NTTドコモとノキアが参考出品していたPDSが付いた携帯電話、三菱電機の産経新聞の記事が読める「E-NEWS」という端末など、多彩な製品が登場した。

モバイル関連のほかにも、NECのブース

では「イントラネット」のシステム構築、松下電器では「SOHO（スモールオフィス・ホームオフィス）」を強くアピールするなど、昨今のデジタルコミュニケーションのトレンドが色濃く反映されていた。

また、NTTは各関連企業も含め、大きなブースを設け、ISDNやテレビ電話システム、

インターネット関連技術、ATM関連機器などを大量展示した。OCN（オープンコンピュータネットワーク）の説明なども行われた。OCNに絡めて、電子現金実験システムやエージェント通信サービスなど、最新技術をアピールしていた。

さらに、HATS（高度通信システム相互接続）推進会議という団体が設けたブースでは、同団体に加盟しているNECやスリーコム、富士通など10数社が共同でISDN用リモートルーターやテレビ会議システムの相互接続を行っていた。

そのほか、先日発表された松下電送のインターネットにつながるファクシミリ端末も参考出品していた。



OCNをアピールするNTT

Provider 接続料値下げ相次ぐ GOLとIIJの2社は電話料金を全国均一に

プロバイダー各社の価格競争が激しい。各社とも、4月に入り、東京インターネットが従来280,000円だった128Kbpsの料金を228,000円に引き下げたのを初めとして、富士通、NTTPCコミュニケーションズなど、大手プロバイダーが相次いで専用線の値下げを行った。

また、ダイヤルアップIP接続の料金も多くのプロバイダーで引き下げが行われている。ASAHIネットは、5月1日から大幅に料金体系が改訂されることになった。従来は月額1,000円で2時間まで、それ以降は1分10円だったが、これに加え、月額2,500円で15時間まで、それ以降は1分3円というコースができた。ユーザーは2通りの料金から選択することができる。

アスキーはハイパーネットと共同で無料

の接続サービス「アスキー・インターネットフリーウェイ」を4月15日から開始した。これは「Hot Cafe」という専用ソフトにより、接続中に広告を画面上に常に表示、広告収入で無料接続を実現している。

加えて新たなサービスとして注目を浴びているのが、グローバルオンラインジャパン（GOL）が始めた全国どこからでも同一の電話料金でアクセスできるサービスだ。日本高速通信と提携して行う同サービスでは、平日昼間は1分20円、夜間と土日は1分10円、深夜と早朝は1分9円でアクセスできる。IIJも5月上旬に同様のサービスを開始する予定だ。

さらに、So-netではダイヤルアップ設定を解説したビデオと、オンラインサインアップソフトを同梱したパッケージを無料で

先着5,000名にプレゼントする「So-netではじめよ。」キャンペーンを開始、インターネットへの接続の知識を持たない人にアピールする。

また、新たに参入してくるプロバイダーも依然として多く、その勢いは衰えない。大手の参入として注目されるのはリクルートとドリームトレインインターネット（DTI）。リクルートはサービス名が「Mix-Juice」で、当初は東京と大阪にアクセスポイントを設置する。

DTIは三菱電機と慶応義塾大学の学生が共同で設立したプロバイダーで、フレームリレーによる全国規模のアクセスポイントと、海外へのリンクを持っている。

注：問い合わせ先は、巻末の「問い合わせ先一覧」をご覧ください。

business StreamWorksの販売で住商とIIJと米Xingが 新会社を設立

住友商事とIIJは、インターネットでリアルタイムの映像を配信するソフト「StreamWorks」の販売に関して、開発元の米国Xing Technology Corporationと包括的に販売提携した。StreamWorksは、128Kbps程度の回線容量があれば、テレビと同じ毎秒30フレームの動画を発信できるソフトで、昨年のAPEC大阪会議や、大阪国際女子マラソンの中継などにも利用された。今回の提携では、3社により新たに日本法人「ジング・テクノロジー・ジャパン」を発足させ、StreamWorksなどXing社製品の日本およびアジアでの独占販売を行う。新会社の資本金は4,000万円で、Xing社が50%、住商とIIJが25%ずつ出資する。

問い合わせ 住友商事(株)TEL.03-3296-7325
電子メール stworks@clubweb.or.jp

brood-cast プロ野球のラジオ生中継 中国放送とNECが リアルオーディオで実験

プロ野球の試合をインターネット上で音声により生中継する実験を、中国放送とNECが共同で開始した。

広島東洋カープの主催試合について、中国放送のホームページ上にラジオ放送の中継音声をリアルタイムで配信するもので、ソフトはリアルオーディオを使っている。東京など中国放送のラジオ放送が聴けない地域でもカープの野球中継を楽しむことができる。

配信サービスは会員制で実施し、4月30日までに応募した約500人に限定して行う。実験には限定ユーザーのための情報配信サービスの可能性を検討する意味もあるという。実験期間は開幕から38試合目までの約3か月間。

問い合わせ (株)中国放送 企画室
TEL.082-222-1321
URL <http://www.rcc-hiroshima.co.jp/radio/>

brood-cast インターネットでFAX転送 スターネットとアステック 共同でサービス開始

インターネット接続サービスや、データ伝送サービスなどを行うスターネットは、ソフトメーカーのアステックと共同で、インターネット経由の電子メールをFAX転送するサービス「Internet-FAX」を開始した。インターネットで送られてきた電子メール情報を、同社内に設置したFAXサーバーでFAX情報に変換し、指定された宛先に送信するもので、電子メールを送信できない相手先でも電子メールと同じ操作でFAXできるのが特徴。初期費用は3万円で、月額基本料金が1,000円。従量制の利用料金はA4判1枚当たりスターネットのネットワーク内が20円、それ以外が40円。

問い合わせ スターネット(株)
TEL.06-220-4445

Software WWWの関連性を立体表示 慶応大学理学部が 「納豆ビュー」開発

慶応義塾大学理工学部の松下教授を中心とする研究グループは、関連するホームページを探して、それらのつながり状態を立体的に表示できるソフト「納豆ビュー」を開発した。各ホームページを豆として表示し、関連性のあるホームページを線で結んでどのようにたどれば目的の情報が得られるかを視覚的に確認できるようにすることで、より容易に情報を収集できるようにした。豆をクリックすれば、目的のホームページにアクセスできるほか、豆を移動させると、全体のつながり状態を別の角度から確認できる。

このソフトはワークステーション対応で開発されたが、今後、パソコン用も開発していく。

問い合わせ 慶応義塾大学理工学部
TEL.045-563-1141

Service ホームページ作成と運用 日本IBMが月56,000円 で代行サービススタート

日本アイ・ビー・エムは、月額56,000円でホームページの作成・開設・運用を行う「ホームページ・マスター」のサービスを開始した。ホームページ用の文書や写真を郵送するだけで、ホームページを開設できるので、HTMLの知識がなくても情報提供でき、サーバーやネットワーク関連の施設や運用も不要となる。

あらかじめ用意された5種類のページ・マスターの中から3ページ分を選択でき、背景色と文字色も5種類のパターンから選択可能。同社のホームページからリンクが張られるため、多数のアクセスも期待できる。

問い合わせ 日本アイ・ビー・エム(株)
IBMハーモニーライン TEL.0120-418-220
URL <http://www.ibm.co.jp/>

WWW J-WAVEの新番組で 坂本龍一が視聴者と 音楽のコラボレーション

J-WAVEの「Microsoft PAZZ&JOPS」に坂本龍一が毎月最終金曜日に出演し、インターネットを利用して視聴者と音楽の共同制作を始めた。番組内でリズムなどのパターンを出題。それをもとに視聴者が曲を制作して応募する。優秀曲はホームページ上にアップロードされる。

問い合わせ J-WAVE TEL.03-3797-7910
URL <http://www.infojapan.com/JWAVE/pazzjops/pazzjops.html>



ラジオのレギュラーは5年ぶりの坂本龍一

brand-est ラジオとインターネットで インディーズ情報番組 Internet Music Surfin'

インターネットのホームページとリンクし、UK最前線の音楽・インディーズシーンの最新情報を紹介するFM番組「Internet Music Surfin'」(インプレス提供、リットーミュージック企画協力)が、5月5日からTOKYO FM(80.0MHz、19:00~19:55)でスタートする。この番組は、リットーミュージック発行の音楽誌である『SiFT』『Indies Magazine』と連動しており、ソニック・ユース、ベン・フォールズ・ファイブ、エコーベリー、ニルヴァーナなどのアーティスト紹介や、国内インディーズシーンの動向、さらに、ホームページ上では、リアルオーディオによる試聴サービスや番組へのアクセスを提供する。

URL <http://www.ipgn.com/TFM/>
または URL <http://www.impress.co.jp/TFM/>

Education インターネット利用の 通信教育システム実験 八洲学園高校が開始

通信制単位制の八洲学園高校は、インターネットを利用した通信教育の実験を開始した。

高校中退者など入学希望者の急増に対応するため、新しい通信教育手段として実験を開始したもので、インターネット上に生徒の答案や成績を流してプライバシー上の問題が発生しないかとか、本当に教育効果があるかななどの問題点を洗い出したうえで、1年後には本格稼働させる意向。

また、クラスメイトや先生との接点がなく孤立しやすい通信教育の欠点を補うため、生徒同士のコミュニケーションを図ることもインターネットを活用する考えだ。

問い合わせ 学校法人八洲学園高校事務局
TEL.0722-62-8281
URL <http://www.s-yashima.ac.jp/>

Commerce ジャストシステムとVISA 電子商取引システムを JustNet上に共同構築

ジャストシステムとビザ・インターナショナルは、クレジットカードによる電子商取引システムをJustNet上に共同構築することで合意した。JustNet上の店舗でクレジットカードによる注文を受け付ける場合、信用照会、決済処理もJustNet経由で行えるようにして、スムーズで迅速な受注・決済処理を実現する。さらに、電子商取引に必要なすべての業務をJustNet経由で行えるよう、VISAのデータプロセッシングセンター「OCAP」との接続機能を強化するほか、セキュリティ技術として世界標準になると見込まれるSETをJustNetに採用し、本人認証を含めた統合的なセキュリティ体系を構築していく。

問い合わせ (株)ジャストシステム JustNet事業部
TEL.03-5412-3909

Information JASがホームページで「B777」のデザインを募集中。賞金は200万円

日本エアシステム(JAS)は、5月31日まで、航空機「B777」の垂直尾翼を含む左右胴体のマーキングデザインをインターネットで募集している。応募方法は、まずJASのホームページにアクセスして、「B777」のフレーム画をダウンロードし、彩色デザインしたフレーム画を電子メールで所定のアドレスに送るか、ホームページにアップロードするというもの。フレーム画と応募フォームを印刷してデザインしたものを郵便で送ることも可能。審査員は映画監督の黒澤 明氏などで、最優秀者には賞金200万円が送られる。詳しくはホームページに掲載中。

URL <http://www.jas.co.jp/>
 電子メール jas-info@po.ijinet.or.jp
 問い合わせ JAS「B777」虹のデザインインターネット公募事務局 TEL.03-5466-1279

Product 128K同期通信ができるマルチリンクPPP対応のPCMCIAカード発売

NTTインテリジェントテクノロジー(NTT-IT)は、ノートパソコンとISDN回線で手軽に高速環境を実現するPCMCIAタイプのISDNカード「ThunderCard DD128」を6月に日米同時発売する。128Kbpsの世界標準規格であるマルチリンクPPPに対応しており、価格は44,800円。

問い合わせ NTTインテリジェントテクノロジー(株)
 TEL.045-651-7511
 電子メール seki@ntt-it.co.jp



スモールオフィス環境にも最適

Information 恒例! オペルジャパンのデザインコンテスト'96 ホームページも募集

コンピュータで製作されたオペルの広告作品を募集し、新しい広告表現手法を探ろうという「オペルデザインコンテスト'96」が、オペルジャパンの主催で実施される。作品の受け付けは8月19日から30日までだが、それに先がけて4月8日から応募に関する問い合わせを受け付けている。3回目の開催になる今年は「グラフィック部門」に加え、新たにマルチメディア部門を設け、「デジタルムービー作品」「デジタルサウンド作品」「インターネットホームページ作品」を募集する。また、全国のサービスビューロー店と結んで出力費を抑えるなど製作環境をサポートする。グランプリには200万円とドイツ旅行招待券の副賞がある。

問い合わせ オペルデザインコンテスト事務局
 TEL.03-5275-0956 FAX03-5275-0957

Product デジタルビデオを静止画データにするボードキット発売

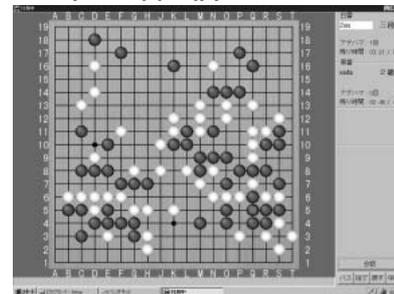
ソニーは、デジタルビデオカメラで撮影した映像を、デジタル信号のままパソコンに取り込めるDV静止画キャプチャーボードキット「DVBK-1000」を5月20日から発売する。ビデオテープに記録された映像の1フレーム分を、デジタル信号のまま静止画データとしてパソコンに取り込むことができるもので、映像は約120Kバイトの小容量で保存できるほか、付属のビューアソフトによって伸長し、汎用のBMPフォーマットに変換して加工することも可能。

また、LANC端子を装備しており、VTRの基本操作をパソコンからコントロールして映像の検索もできる。価格は58,000円。
 問い合わせ ソニー(株)東京お客様ご相談センター
 TEL.03-5448-3311

Service 囲碁の対局ができる「パンダネット」 NKBがサービス開始

インターネットで囲碁の対局ができる「パンダネット」のサービスがNKBで開始された。NKBが韓国の囲碁対局サービス「ISG」の独占運営権を取得して行うもので、専用ソフトにより対局や観戦ができる。入会金は専用ソフト料金を含めて1万円、月会費は2,500円。

問い合わせ (株)NKB情報システム本部
 TEL.03-3215-2551
 URL <http://www.joy.or.jp/panda/>



パンダネットの対局シーン

Product モデムとQCcamのビデオ会議キットをサン電子が発売

電話回線で手軽にビデオ会議ができる低価格の「DSVDビデオ・カンファレンス・キット」がサン電子から発売された。DSVD(Digital Simultaneous Voice and Data)機能搭載の28.8KbpsFAXモデムと、モノクロCCDカメラQCcam、ビデオ会議ソフトのセットで、価格は52,800円。

問い合わせ サン電子(株)SCC事業部
 TEL.0120-863810
 URL <http://www.sun-denshi.co.jp/>



QCcamとモデムがセットになったビデオ会議キット

Product 高速で全文検索する
サーバー用ソフト
松下電器から新発売

松下電器産業は、WWWサーバー用ソフトとして、高速に文書の検索・登録ができるインターネット高速全文検索登録ソフトを開発、5月20日から発売する。

文書のインデックスがリアルタイムに自動作成されるので、新しい情報を素早く検索してWWWサーバーに登録でき、インデックスの再整理も不要なため、頻りに文書登録が必要なグループウェアや文書管理システムなどに効果を発揮する。WWWサーバー接続部、リアルタイム登録処理、検索処理、バッチ処理、インデックスファイル、検索結果一覧ファイル、実データファイルから構成される。価格は395万円から。

問い合わせ 松下電器産業(株)CCシステム営業課
TEL.03-5460-2632

Product WWWサーバー構築ソフト
「NetWare Web Server」
ノベルから新発売

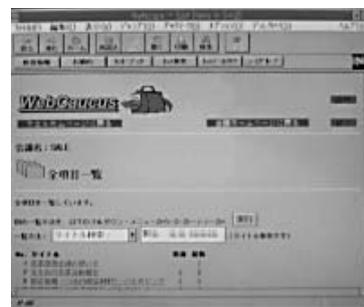
ノベルは、NetWare 4.1J上にインストールするだけでWWWサーバーを構築できる「NetWare Web Server 2.1J」の日本語版を発売した。専門的なUNIXの知識を必要とせず、簡単にインストールと初期設定ができるもの。また、NetWareのパフォーマンスを適用することにより、他社製品に比べ約2倍の処理速度を実現した。このほか、NDS(NetWare Directory Services)に対応しているため、高度なサーバーセキュリティ機能を利用できることや、特定のIPアドレス、グループ、ディレクトリなど、WWWサーバー上のドキュメントごとに細かくアクセス制限できるなどの特徴を持つ。価格は49,800円

問い合わせ ノベル(株) TEL.03-5481-1161

Product WWWの電子会議ソフト
「WebCaucus」が
バージョンアップ

インタージョインは、WWWサーバー対応のグループウェア「WebCaucus」(ウェブコーカス)の新バージョンを発売した。イントラネットで社内の利用者同士が情報を共有できる。新製品では検索機能を追加し、情報の読み出し機能をより強化している。価格は40万円から。

問い合わせ インタージョイン(株)営業部
TEL.03-3366-6300



WWWで情報を共有するWebCaucus

Product メールサーバーソフト
SendmailのWinNT版
ANTから新発売

アスキー・ネットワーク・テクノロジーは、インターネット・メールサーバーソフト「Sendmail with POP3 for Windows NT」を発売した。すでに製品化している「UNIX Sendmail 8.7」のWindows NT版で、コンフィギュレーションとデータファイルがそのままUNIXから移行できるので、UNIXの資産を無駄にすることなくWindows NTへシステムを移行できる。また、UNIXのエンジニアの再教育が不要となる。

このほか、POP3 1.0を搭載しており、メールクライアントとしてMicrosoft Exchange、Eudora、Netscape、AL-Mailなどが利用可能なことなども特徴。価格は69,800円。

問い合わせ (株)アスキー・ネットワーク・テクノロジー TEL.03-5350-1030

Present NECのISDNボード
「FXTERM2」を2台モニター募集

ISDN64Kbpsの同期通信ができる通信ボード「FXTERM2」が、NECから発売されている。DOS/VまたはPC98用で、Windows95に対応し、PPP接続ができる。製品の価格は69,800円で、NECプロバイダーサービスmeshの利用料2000円分の割引券が付いている。

今回、この製品のモニターをインターネットマガジン読者から2名募集する。対象は、ISDN回線をすでに持っている、もしくは7月までに導入する人。また、同社で接続確認済みのプロバイダー(mesh、IIJ、アスキーインターネット、Info GLOBE、日産インターネット、ALLESNET、So-net)に入会していることが条件になる。応募要領は以下のとおり。

モニター応募方法 タイトルにはNEC、本

文にはあなたの名前、送付先の住所・連絡先、DOS/V用か98用かを書いて、ip-box@impress.co.jpまで電子メールを送る。

締め切り 5月28日

当選者の発表 発送をもって通知。なお、当選者はアンケートに回答のこと。

製品の問い合わせ先 NECマイコンテクノロジー(株) TEL.03-3769-4368



ボードにケーブル、必要なソフトが付いてくるFXTERM2



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp